

初任者研修通信

No. 2

令和2年9月29日(火)発行

小学部 2-1 宇都宮先生「音楽」

9月9日(水)に宇都宮先生が行った「音楽」の授業について、校内の初任者で研究協議を行いました。

今回はそこで出てきた授業のきりりポイントや改善点を紹介します！

まあるい卵がぱかっ
と割れて・・・♪

ポイント①教材の工夫

「まあるいたまご」という手遊び歌では、大きさの異なる卵からひよこや怪獣が出てくるペープサートを提示することで、児童が興味をもって歌の内容を理解し、腕の振りの大きさを変えられるように工夫されていました。児童はペープサートに出てくる生き物を見て自ら腕を大きく振ったり、小さく動かしたりして表現を楽しんでいる様子が見られました。

一方で、教材がかえって児童の身体表現を減らしてしまった場面もありました。「とんぼのめがね」でとんぼになりきってほしいという願いからセロファンで作ったカラーめがねを提示し、児童はとても興味を持っていました。しかし、児童はめがねを付けたまま曲が始まっても身体を動かすことなく終わってしまいました。目的によっては教材がないほうが良い場合もあること、または目的に応じた教材を考えることの大切さを学びました。



ポイント②児童の実態に応じた楽器遊び

楽器遊びでは、「いっしょにならそうよ」の曲を使い、曲の中の決まった場所で1回楽器を鳴らす活動を行いました。鳴らさないところは手をグーにする、鳴らす前に手をパーにしてから手を叩くという手拍子を使って練習をした後で、楽器を扱う流れにされていました。楽器を扱うときにも、児童は曲の中の聴くところと鳴らすところをしっかりと意識することができていました。また、曲は歌詞もなくシンプルなピアノの曲でしたが、それがかえって児童の集中を高め、鳴らすところが分かりやすくなったのではないかという意見が出ました。

今日の楽器は何かな？
じゃーん！

(写真★)



本校の今年度学校目標は「チャレンジ」(知りたい・伝えたい・やってみよう)です。

毎時間の授業の中で、児童生徒のチャレンジする姿を引き出すための指導や工夫を重ねてきています。宇都宮先生の授業の中でも、児童のチャレンジする姿を見ることができました。どんな工夫があったか、次に一部紹介します。

◎知りたい→教材や楽器を出すときに注目を促し、興味をもてるような提示方法を工夫していた。(写真★)

◎伝えたい→児童の表現を即時的に言葉かけや拍手で賞賛し、表現したい意欲を高めていた。

◎やってみよう→児童がやりたい楽器や動物、色等を選択する場面を用意していた。

肢体不自由教育ミニ研修

今回は教師が児童生徒を抱っこしたり、介助して乗せたり下ろしたりする際に大切なポイントを紹介します。日常で何度も繰り返す動作ですが、ポイントを意識することで児童生徒が安心して身体を預けられるようになり、信頼関係を作ることにもつながります。

< 移乗の際に気を付けておきたいこと >

①教師の服装は？

- * ナイロン素材のものは抱っこの時に子供の身体が滑りやすいので、注意しましょう。
- * ネックレスやブレスレットは危険なので付けないようにしましょう。
- * 前開きの服は閉じるようにしましょう。

②移乗の前に確認しよう！

- * 移乗先の車いすの位置や向き、アームサポート。
→できるだけ最短距離で、無駄な動きを減らそう。アームサポートはあげておこう。
- * 車いすの角度やベルト。
→車いすの角度を倒しておくとおもてまでしっかり座れるよ。

③抱っこの仕方

次の写真の抱き方は良くない抱っこの仕方の例です。

なぜ、これらの抱き方が良くないのでしょうか？

A



B



A 教師の重心が高い状態で、子どもから身体を離して抱き上げている

抱っこをする際に、子どもや先生たちの体に負担を掛ける抱き方は避けましょう。

例えば、写真のように重心が高い状態で抱き上げようとするとうちや肩、腰にかなりの負担が掛かります。また、教師の身体が児童生徒の体から離れているので、子どもの不意な動きがあった時に誤って落としてしまう危険もあります。身体全体で子どもの身体を支えるようにしましょう。

B 子どもの腕が体の横に落ちていて、頭が反っている

腕が落ちたまま抱き上げると車いすの肘おきで引っ掛けたり、下ろす際に圧迫したりして危険です。抱き上げる前に腕がきちんと身体のある中心にあることを確認してから抱き上げましょう。特に、教師の身体に近い側の腕が落ちているときに気付かずにひっかけてしまうことがあるので、気を付けましょう。首が定頸しておらず安定しない児童生徒もいますので、教師の片腕に児童生徒の頭部をしっかりと乗せて首が反らないように支えましょう。